

平生業成

南無阿弥陀仏のいわれをよくよく聞いてみると、如来の願いが煩惱に狂っている私を救わずにはおかないとの願いであった。南無阿弥陀仏は、間違はなく、救われている証拠であったと知らされてみれば、この身このまま救いのみ手の中で、何という仕合わせ者であったかといふことはおられません。

われも光のうちにあり、と気付かせて頂いたということは、如来のまことが私の内にいたりといて下さったからであります。

如来のまことが私の心の中に入り、み光につつまれた身であるからには、臨終を案ずることはあ

りません。できることなら、安らかな最後

でありたいとは思いますが、どんな業を担っているかわからず、苦しみながらいか、安らかにいけるか、全くわかりませんが、どんな業を担っているようにも、お慈悲の中なので、命終ればそのままお浄土に参らせて頂くことであります。

「臨終に仏のお迎えをいただきたい」と思うのは、自分の力でお浄土に生まれようと思っている人たちである。

如来の本願を信ずる人は、光に納めとられており、往生に間違いのない身にして頂いているのであるから、臨終のよしあしを考へることもいらないしあらためて仏のお

迎えを期待することもない。信心が定まる時に往生も定まるのである」と、祖聖は仰せになり、蓮如上人も「されば信をえたくらいを、經には即得往生住不退転ととき、釈

には一念発起入正定之聚ともいえる。これすなはち不來迎の談、平生業成の義なり」と仰せられました。

「平生業成」は浄土真宗の特色であります。平生に浄土に往生する業因ができあがるということです。

自分の知恵や力で往生を願う人たちは自分の行業を往生の因とするのですから、臨終業成を願うのでありますが念仏往生の人は、南無阿弥陀の名号をもつて業因とするので、平生、臨終を問わず、その名

号を領受した時、信心決定の時、往生の業因ができあがるので、平生業成といわれるのであります。

「親鸞聖人の一流においては平生業成の義にして、臨終往生ののぞみを本とせず、不來迎の談にて來迎の義を執せず」と存覚上人も記しておられます。

平生業成と知らされると、



仏立像

ベルリン国立インド美術館蔵、高57センチ

東インドでは8世紀から約4世紀にわたりパーラ朝が仏教を保護し、この間仏教美術はインドで最後の隆盛をみた。ナーランダーはその代表的な遺跡で、主にこの時代に属する遺構や彫刻が多数発掘された。特に石造の尊像彫刻はパーラ美術の

中心をなすもので、その多くはこの作例のように小型で、楕円ないし蓮弁形の碑像形式をとる

まことに氣樂であります、死んだらどうなるか、死ぬときはどうなるかという心配は全くありません。死んでいくのではなく、必ずお浄土に生まれ往く身にして頂いているということは、今のよろこびであります。

これから先の日暮しは幸か不幸か知らないが、どちらになってもよろしいと、たしかな覚悟ができました。

と、うたい、「雨もあらしもあるであろ、照る日も暮る日それぞれに、生き抜く道をばめぐまれて、心晴れ晴れいきていく」と、歌われるように、心晴れ晴れと生き抜かせていただく大きなよろこびこそ、平生業成の人のありがたい姿であります。

はかりなき お慈悲の中に包まれて安けき日々のあけくれ思ふ

ありがたき名をたまわり

おのづから 苦は苦のままに
(奈良林)

浄土を願う人々

関東から十余ヶ国の境を越えて、命がけで、京都におられる親鸞聖人のもとを訪ねた人々は、浄土を願う人たちであった。ひとへに往生極楽の道を問ひ聞かんがためであった。それは京都見物、物見遊山といったものではなく、身命をかえりみずして、聖人を訪ねた人たちであった。往生極楽の道を聞いた人たちは、確かに七百年昔の人であった。その時代には、テレビもラジオも宇宙ロケットもなかった。だから、極楽とか浄土とかは、現代の



人々には受け入れられないといわれている。キリスト教でも、神の存在を認めないものがあるという。神も仏もないという考え方が、現代の多くの人たちである。

浄土を否定する人は気の毒

私はこうした考え方をする人々と議論しようとは思わない。往生極楽の道を、過去の無知の人々に説いた、つまらない話とあざ笑う人々や、浄土の教えを否定しようとする人々をむしろきのどくな人々だと思っている。

往生極楽を信ずるお前は、馬鹿なやつだと笑われても良い、非近代的だとそしられても良い、お浄土に参らせて頂く身の幸せを喜ばせて頂くものである。

私は私自身の頭で、浄土を認めることは出来ない。全く分からない。しかし如来の本願を聞く身にさせていだいたから、本願に誓われた浄土、煩惱具足、罪惡深重の私のため

に成就されたお浄土に参らせて頂くものと信じさせて頂いている。

今、救われている

私の知識や力や値打ちによって行く世界ではない。如来の本願力によって参らせて頂く世界である。如来の救いは、遠い未来においてではない。南無阿弥陀仏のおいわれを聞く身にならせて頂くと、今、救われていることが知られる。如来の摂取の光明に包まれているのである。如来の慈悲のみに抱かれているのである。

どこで、何をしても、いつも光りの中である。光りに包まれお慈悲に抱かれつつ行く世界は、光明無量、寿命無量の世界である。それが浄土である。本願を信じ念仏申す者は、必ずお浄土に生まれさせて頂くのである。我が身が浄土に生まれさせて頂くだけではない。浄土に生まれて仏となり、迷いの世界に還ってきて、迷える人々を救う働きまで恵まれるのである。浄土に生まれ往くこと



修正会の後で

質疑応答

問 今度、霊園で法事をします
が葬式の時のお坊さんと霊園のお坊
さんとどちらに頼んだら良いでしょ
うか。

答 本来ならば、どの家にも決
まった菩提寺というものがあるはず

も、浄土から還り来ることも、
すべて南無阿弥陀仏のはたらき
である。

自らの力で浄土が願われるの
ではない。弥陀の本願を聞き、
念仏申す身とならしめられてこ
そ、浄土を願う人となるのであ
る。

浄土を願うことは、永遠のい
のちに生きることである。死ぬ
のではなく生き抜く身とならし
められることである。この世に
あるかぎり、念仏申しつつ世の
ため人のために、精一杯働かせ
てもらう。そのままが如来の広
大なご恩に報いる道なのであ
る。愚かな者が、愚かなるまま
参らせて頂く浄土、有難いこと
である。

で、仏事はもっぱらそこへ依頼
するのが当たり前でした。現在
だからこそ、あなたのようなご
質問があり得るわけです。

さて、法名は、どちらのお寺
で付けて頂いたのでしょうか。
法事お勤めは同じ僧侶に依頼す
るのが筋であります。法名を付

けるといふのは、ただ名前を付
けるといふだけではなく、後々
のことも面倒を見る責任があると
いうことを意味するからです。
もしも法名を菩提寺から受けられ
た場合には、葬儀を執行した僧
侶に依頼するのがよいでしょう。
いずれにしても、法事の度に違
う僧侶というのは、あまり好ま
しいことではないような気がしま
す。

心から尊敬出来、何でも相談の
できる僧侶と出会っていただきた
いと思います。

さて、霊園墓地が普及してき
ますと、どうしても年忌の法事
を墓前法要で済ませてしまうとい
う傾向が強まっています。墓前
法要はいつも晴れるとはかぎりま
せん。交通の便も問題です。

納骨などの時は仕方がありませ
んが、それ以外は、遠方の墓参
りは内々であらかじめ済ませてお
き、ご自宅や菩提寺、あるいは
便利な会場で落ち着いて法要を営
むことをお勧めいたします。

釈 尚文 独り言

先日京都に行く機会があり
本山に参詣した折に、聞法会
館の書棚に「浄土真宗版エン
ディングノート」（探究社6
00円）を見つけて購入し、
新年早々少しづつ記載しはじ
めた。

自分史としての履歴は簡単
と思ったが意外に忘れた事柄
があり、年齢と年度を数え数
え記載した。

一方、時々感想や思い出
は一度には書ききれない。

また死や死後への希望は、
今までなかなか考えてこな
かったことを痛感させられな
がら、死を実感出来ていない
自分をあらためて発見でき
た。人に見せるのではなく、
自分が何度も読み返して日々
を生きて行く材料になること
が、このノートを今書く目的
だと思ひ活用することも面白
いと感じた次第です。

でも生きているうちは家内
以外には見せたくないと思
う。

編集後記

◎重い病気を患ったことのない者にとつては、生死が目前の問題になった時には、右往左往するばかり、もつと堂々としておれると想像していたが、そうはいかなかった。

◎命終わったらお浄土に生まれるのだからと、安心できるだろうと思っていた。

◎「先に往生した両親、前坊守にあえるのだからよいじゃないか」という気持ちも少しはあったが、それ以上に現実の病気をどう克服するするかというほうに気持ちがいつてしまします。

◎いつも健康なときに受け止める気持ちとは、大分違ってくる。はたしてこれでよいのだろうか？と反省させられた、と同時にこんな弱い私だからこそどんな気持ちになろうとも必ずお浄土へ生まれさせずにはおかまいという働きを一方では感じありがたかった。

◎こういう私だからこそお念仏のおいわれを徹底的に聴聞すべきことを教わった。

◎ニュートンは木から落ちるリングを見て、万有引力の法則を発見した。

◎万有引力は目には見えないが、そこに力が作用しているから物が落ちる。物が落ちる事によって目には見えない力があることを知る

◎煙突の煙がたなびく、雨戸をたたく音で風や雨が吹いている事を知る。

二月御法座案内

九日(日) 午前十時

聖典講座

講師

岡本信之師

正午

健康相談

講師

佐藤公彦医師

十六日(日) 午前十時

なかよしくらぶ

十八日(火) 十一時

歎異抄の会

廿三日(日) 午前十時

聖典講座

るのはなぜか？本願力の働きにほかならない。

◎自己の真実の姿を凝視し自己を掘り下げていったところにこそ、仏の光も、救いもはつきりと了解できる。

◎自己を掘り下げる力も、如来のなす業である事に気づく

◎日食観測は黒いすすの油を通して、太陽の姿を見る。

◎目に見えない広大無辺のお慈悲を知る事のできない私は、無明煩惱の黒いすすの油を通して、お慈悲を知らされる。

◎このご恩を知れば、報いる事の出来ない大きなご恩を頂いている事を喜ぶ以外になすわざがない。ただお念仏のみである。



新しい納骨仏壇製作

貴方の納骨仏壇を用意しました。先祖代々の墓地等を見にくれるか解らない時代です。核家族となり、親子の関係も段々変わりつつあります。安心して生きてゆくために準備が必要です。お寺の方で永代に供養できる納骨壇です。一基三十万円です。お気軽にご相談ください。

